

よくぼりウォーキング

7月28日(日)よくぼりウォーキングが行われ、38名が参加しました。

行き先は、永福寺と速川公民館です。まず、160号線で交通安全の呼びかけをした後、車で速川地区に移動しました。永福寺では住職から寺の歴史について聞きました。その後、速川公民館まで歩き、山下主事から大伴家持と中西進先生の話や「いずみの会」の読み聞かせ等を聞きました。速川地区の活動を知る貴重な機会になりました。



花鉢プレゼント

7月12日(金)、一人暮らし老人への「花鉢プレゼント」がありました。「出発式」では、校長先生の話、児童代表の挨拶、協力してくれる方々の紹介をしました。その後、ベコニアの鉢を持って老人宅を訪問しました。



* 公民館主事の独り言

特定社会保険労務士・ハラスメント防止コンサルタント他 菅田芳恵

兵庫県の斉藤知事のパワハラが原因で県職員の一人が亡くなった。この他にもいろいろなハラスメント行為が社会問題になっている。そこで市では、ハラスメント防止研修を行った。ハラスメントを「しない・させない・見逃さない」ことが大切であると感じた。



菅田芳恵氏

- 1 ハラスメントを起こる背景
 - ・職場環境の変化
 - ・働く人の意識の変化
 - ・根強い性別役割分担 他
- 2 ハラスメントの影響
 - ・被害者…精神疾患や自殺
 - ・行為者…社会的ダメージ、損害賠償
 - ・組織…風評被害、人材流出

- 3 法的責任
 - ・行為者…刑事責任、民事責任
 - ・組織…民事責

- 4 セクハラとは
 - ・相手の意に反する性的言動

- ・本人が不快と感じればセクハラになる
- ・不必要な接触や強要、執拗な誘い
- ・「お願い」はセクハラにならない

- 5 マタハラとは
 - ・妊娠や出産、育児や介護を理由に精神的・肉体的な嫌がらせや不利益を被ったりするなどの扱いを受けること
 - ・ケアハラスメント(デイサービス利用するため)やパタニティハラスメント(産後パパ育休)がある。
- 6 パワハラとは
 - ・優越的な関係を背景に業務上の適切な範囲を超えたものにより労働者が害されるもの。ただし「平均的な労働者の感じ方」を基準とする。

○ 9月の講座案内

講座名	曜日	開設日	講師・責任者	時間	部屋
生け花 (池坊)	第1・3水曜日	4日 18日	西山栄津子	10:00～ 14:00	洋室
かな書道	第1・3月曜日	2日 16日	猶明 光華	13:00～	洋室
学童茶道& 百人一首	毎週木曜日	5日 12日 19日 26日	学童支援員	15:00～	和室
手芸	第3火曜日	17日	伏木あい子	13:30～	和室
潮華会(新舞踊)	毎週土曜日	7日 14日 21日 28日	大野 朝子	19:00～	和室
潮月会(新舞踊)	毎週金曜日	6日 13日 20日 27日	大野 朝子	13:00～	和室
囲碁サロン	毎週月・水曜日	2日 4日 9日 11日 16日 18日 23日 25日 30日		13:30～	和室
フラダンス	第1・3月曜日	2日 16日	東軒みさ子	19:00～	和室
常磐会書道教室	第2・4土曜日	14日 28日	名苗くみ子	10:00～	洋室

○阿尾公民館からのお知らせ

・ふれあいランチは、阿尾はありません。指崎は9月20日(金)の予定です。

○おらっちゃん風土記 (人物編)

高沢 瑞信



明治初め国学の研究が盛んに行われた。氷見地方においても、古典研究を通じて国学を学ぶ神職が次々に現れた。北八代の箭代神社の高沢瑞信もその一人である。

高沢家は代々古典の研究や和歌のたしなみが深かった。瑞信の父瑞穂は、平田鉄胤(篤胤の養子)の弟子となった。明治維新後、高岡の射水神社等多くの神職を歴任し、多くの国学者に師事した。

このような家風を受け継いだ瑞信は、古典や神典の研究に打ち込むとともに、郷土の剣豪斉藤弥九郎が始めた神道無念流の剣術を学んだ。

明治5年、七尾県(能登と射水郡を含む)の神社係を命ぜられ、気多大社の神職となった。その後、神道家の立場から政治運動に参加し、明治維新以降の日本の歩むべき道を人々に説き広めた。

※「氷見の先賢」氷見市教育委員会編 参照

明治21年、郷里に迎えられ、氷見の卓爾小学校(阿尾小学校)、振気小学校(一划小学校)、育精小学校(余川小学校)、宇波小学校の校長として郷土の子弟教育のために尽力した。明治23年、小学校令の改正に伴い辞職した。次いで明治27年、神官・僧侶の政治参加が禁止されたため、もっぱら神職として奉仕し、古典研究に努めた。

万葉集の研究を通して、大伴家持の遺徳慕う瑞信は、地元有志の協力を得て、明治33年御影社において盛大に大伴家持卿千百年祭を催し、記念として布勢神社の境内に「大伴家持卿之碑」を建てた。このように、瑞信は、万葉集の研究書をまとめるかたわら、有志と図って大伴家持顕彰のための事業を企てるなど、その政治的手腕はなみなみならぬものがあつた。

郷土の万葉研究は、瑞信の手によって大いに進み、また、郷土の人々にとっても身近な存在として受け止められるようになったのである。

今も万葉集や大伴家持が注目を集めるのは、箭代神社の高沢瑞信氏の功績には大きいのである。